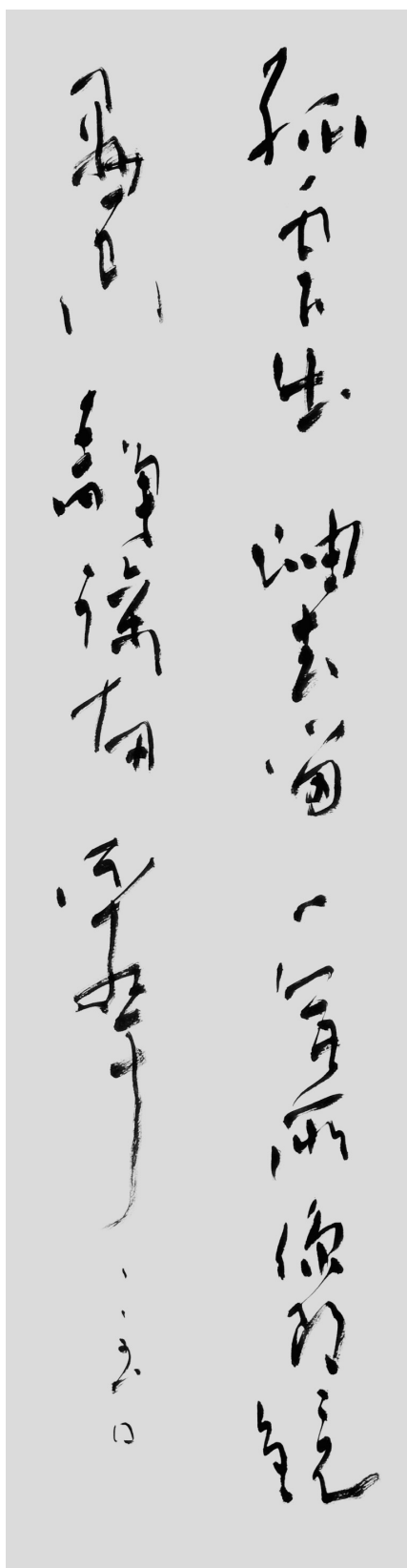


8月27日正午必着

明石春浦先生書



孤雲 出岫、
去留 一無所係。
朗鏡懸空、
靜躁兩不相干。

(菜根譚講話)

谷から湧き出た白雲は、去るも留まるも思いのまま、何事にもとらわれない。空にかかった明月は、地上のさわがしさにも静けさにも、わずらわされることはない。

明石幸子書



夏の夜の^よ 月の光に天^{あめ}なるや 遊ぶ^{あそぶ}白雲 たのしくは見ゆ (窪田空穂)



心静無妨喧處寂

機忘兼覺夢中間

(白居易)

人生は心のもちようである。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

移_レ竹喜微陰_二(陸 游)

竹を移_レして微陰を喜ぶ

竹をうえて少しばかり日蔭ができた。

風來_二蘋末聊自快
暑滿_二人間無_レ處_レ逃 (龐 鑄)

風は蘋末に來たりて聊か自ら快とし
暑は人間に滿ちて逃るる處無し

夏日の即興。

陸渾山莊 (宋之問)

陸渾の山莊 宋之問

歸來物外情 負_レ杖閱_二巖耕_一
源水看_レ花入 幽林採_レ藥行
野人相_二問姓_一 山鳥自呼_レ名
去去獨吾樂 無能愧_二此生_一

歸來して 物外の情あり 杖を負いて 巖耕を閲す
源水 花を看_レて入り 幽林 藥を採_レて行く
野人 姓を相問い 山鳥 自ら名を呼ぶ
去り去りて 独り吾れ楽しまん 無能 此の生を愧ず

よろこびの餘_レ燼のことき 蟬のこゑ 聞きある吾は こころ弱きか

(佐藤佐太郎)

半紙部規定課題A

8月27日正午必着

南 時
客 逢
海

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(五体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。



行書



草書



隸書



行草書



篆書

贈「山中日南僧」
張籍

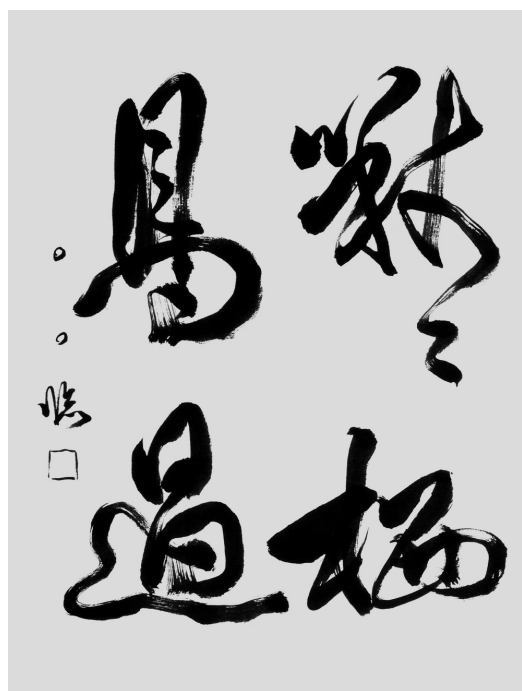
獨向「雙峯」老
松門閉「兩涯」
翻經上「蕉葉」
掛納落「藤花」
登石新開井
穿「林」日種茶
時逢「海南客」
蠻語問「誰家」

「山中の日南の僧に贈る」
張籍

ひとり双峰に向かつて老ゆ
松門 両涯を閉ず
經を翻して蕉葉に上せ
納を掛けて藤花を落す
石を登みて新たに井を開き
林を穿ちて日に茶を種う
時に海南の客に逢い
蠻語して 誰が家かを問う

ただひとり双峰に対して過す中に年老い 松木立の中の門は両側よりせまる崖をぴったりと閉ざす
經典を翻訳して芭蕉の葉に書きしるし 袈裟を掛けておくところに藤の花が散りかかる
石畳を敷いて、新たに井戸を開き 林を切り拓いて毎日茶を植えておられる
時折り海の南より訪れる客に逢い 南蛮のことばで誰方かなどとたずねている

8月27日正午必着

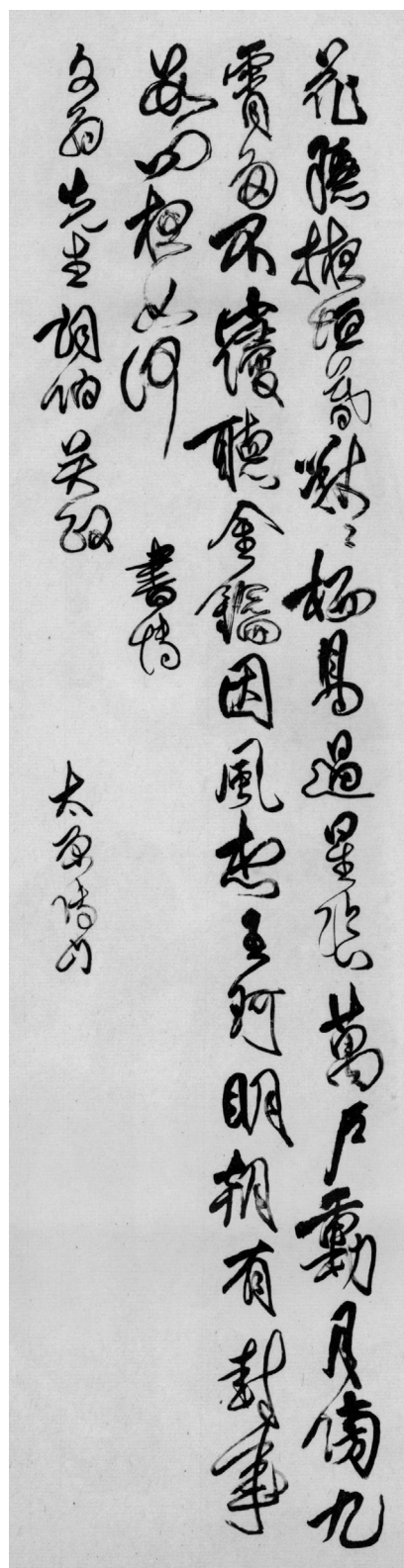


啾啾棲鳥過。

花隠掖垣暮。啾啾棲鳥過。星臨萬戸動。月傍九霄多。不寝聽金鑰。因風想玉珂。明朝有封事。太原傳山
花のすがたはおぼろになつて宮殿の垣に夕ぐれがおとずれ、ちゅうちゅうと鳴きながらねぐらに帰っていく鳥が通りすぎる。星は千門万戸に向つていっせいに光を
ゆるがしはじめ、月の光は宮殿によりそうてみちあふれんばかりだ。ねもやらずに門を開ける金の錠前の音に耳をすませ、風のさつと吹く音によって誰かが玉珂を
鳴らしながら朝には天子さまに奉る秘密の上奏文があるのでそれが気にかかり、夜の時刻いかにとしばしばたずねてみるのだ。

西 墨濤先生臨書

明末清初 傅山・行書冊



太原傅山

傅山（一六〇七～一六八四）初名は鼎臣、後に山に改めた。字は青竹、後に青主、仁仲など、別号も非常に多く石道人、六持、不哉庵老人、龍道人など三〇近く知られる。山西陽曲（現在の山西省太原市）の代々学者の家柄に生まれる。身体は頑健ではなかったとされているが、幼少の頃からたいへんな秀才ぶりで、読書をすれば過目たちまち誦をなし、経史諸子および仏道の学に通じ、医術に詳しく、書画にも工で、いわゆる「四寧四母」の説で知られる。その傅山の生きた明朝末期から清朝にかけての書はきわめて特異なものとして光彩を放っている。傅山、王鐸を筆頭に廣道周、張瑞図などの名手達に育まれた「長条幅に連綿草」の表現形式、書風は、彼らが古典を学び、異体字を遣い、鬱勃たる情熱をぶつけ、爆発的なものすこいうねりを伴い新しい書美を生んだ。各々に一脈通じるところはあるが、その独特の筆致はそれぞれの生き方が暗示されている。

傅山は書論の中で「字を作すに先ず人を作せ、人奇なれば字自ずから古なり。」とある。人間ができることが、すぐに「美しい書、魅力ある書」に結びつくとは考えられないが、魅力ある人間像と、ひたすら自身を高め、自身の書を求める努力は当然密着するものと考えられる。

（四寧四母…学問、政治、医術、芸術を繰り返し学び、貫く。）

（春龍）



・一枚の臨書作品であることを考慮し、『多』字は敢えて墨を入れて全体を纏めました。
月傍九霄多。

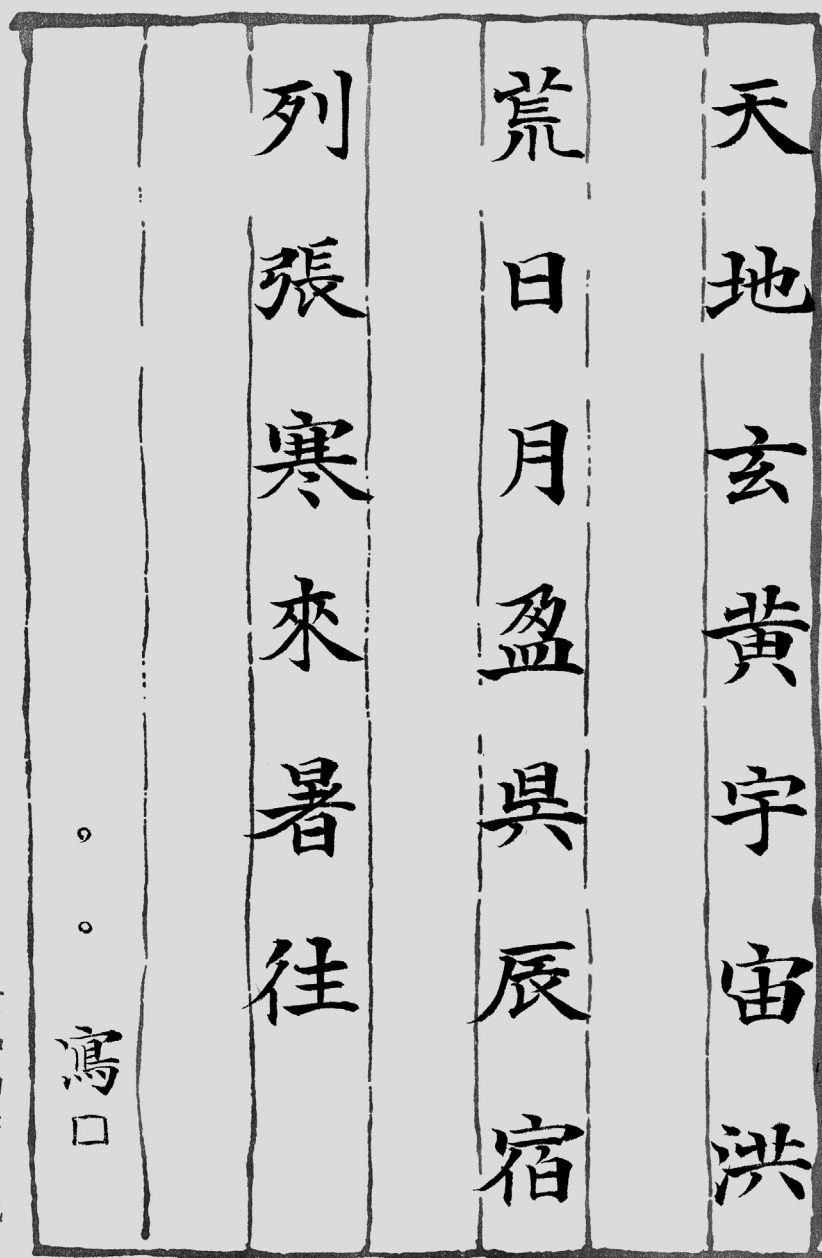
《倣書参考》

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。



悠悠雨初霽 獨繞清溪曲 引杖試荒泉 解帶圍新竹
沈吟亦何事 寂寞固所欲 幸此息營營 嘯歌靜炎燠
(柳宗元)

傳山らしい縦の流れを表現する為に、傳山の行草連綿作品によく見られる本文の揺さぶりと、そこから醸し出される行間の変化を敢えて表現してみました。



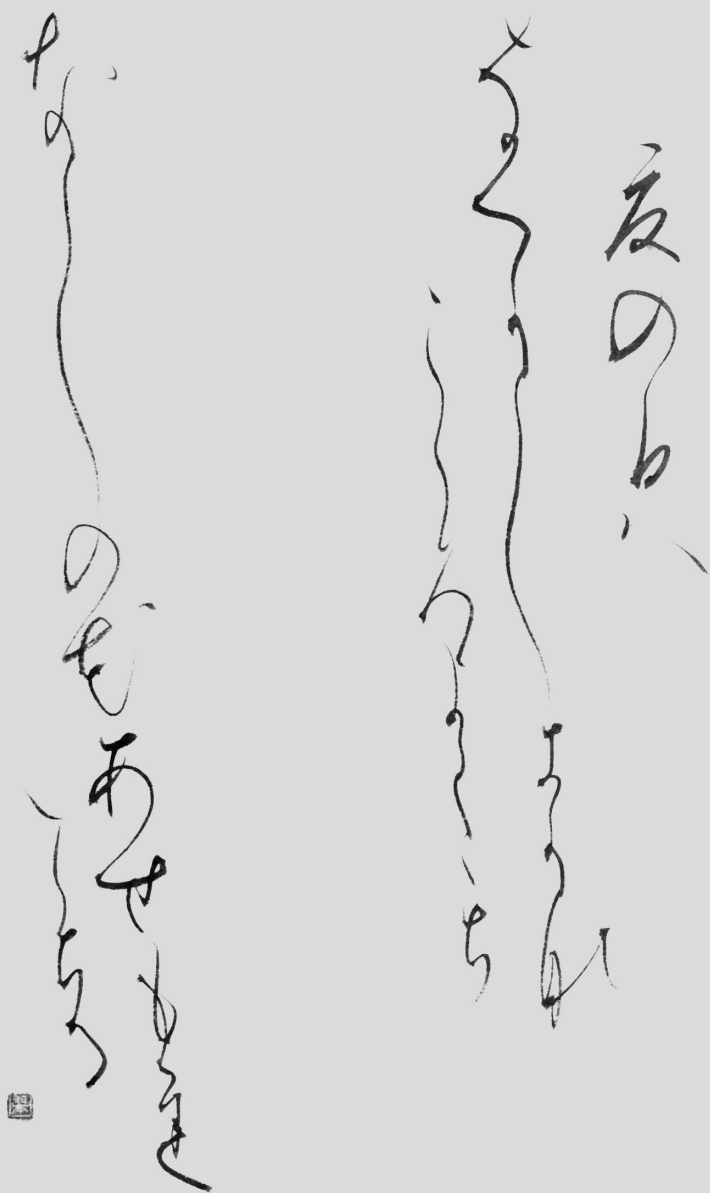
。。
寫口

玄和細字用紙

※用紙サイズ：半紙 $\frac{1}{2}$ タテ書き（毛筆）・玄和細字用紙（25枚綴り ¥550 | 税込、送料別）

西 墨濤先生書

夏
八
奈
可
支
可
那
の
日
は
な
つ
か
し
き
か
な
こ
ゝ
ろ
よ
く
ゝ
ち
な
し
の
花
あ
せ
も
ち
て
ち
る
(北原白秋)



松永翠舟先生書

8月27日正午必着

教育部毛筆

演奏

えん
演

そう
奏

中学一年

雨宮春聲先生書

縁日

えん
縁

にち
日

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸春龍先生書

たい
太

よう
陽

小学五年



横川春川先生書

めい
迷

ろ
路

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

8月27日正午必着

実力

藤田幸春先生書

じつ
実

りょく
力

小学三年

投手

細谷春誠先生書

とう
投

しゅ
手

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

び わ 小学一年・幼年



森戸春濤書

こう だい 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

8月27日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

貝がらから聞こえて
くる潮風のメロディ

小学五年

広い海原にぽっかり
とうかぶ緑の小島

小学六年

岩に打ちあたる波しぶ
きは海の怒りのようだ

中学

幸福ほど人間の美しさに
たいする化粧品はない

一般(級位)

いざよひの心で瞳みてあーぬ
つき夏も山に影はちみづく

一般(段位)

小鳥らのいかに眺みてありぬべき 夏青山に 我はちかづく (齋藤茂吉)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

う	か
	が
ひ	や
か	く
る	た
う	い
み	よ

幼 年

と	な
て	つ
も	の
す	木
ず	か
し	げ
い	は

小学一年

た	は
	ま
白	べ
い	で
貝	み
が	つ
ら	け

小学二年

が	は
歩	げ
道	し
を	い
ぬ	タ
ら	だ
す	ち

小学三年

ぜ	エ
ん	ア
の	コ
風	ン
を	を
入	止
れ	め
た	自

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。